

## 荒川上流河川事務所の多自然川づくり

荒川上流河川事務所 河川環境課 ○新保 美奈子 鬼頭 岳彦 濱田 貴弘

### 1. はじめに

本発表は、調査、計画、設計、施工、維持管理等の河川管理におけるすべての行為が対象である「多自然川づくり」について、過去に荒川上流河川事務所が実施してきた取り組みの一部を紹介するとともに、現在の状況を報告するものである。

### 2. 自然再生事業

#### 2.1. 三ツ又沼環境整備(三ツ又沼ビオトープ:平成7年~12年)

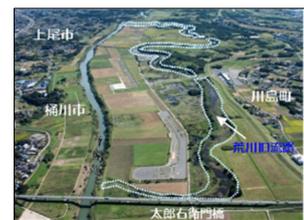
旧川との合流点の名残であり、豊かな自然が残る「三ツ又沼」を守りたいという地域の声を受け、ビオトープを整備。当時としては全国的にも珍しい環境事業のための公有地化を実施。

#### 2.2. 高麗川浅羽地区環境整備(浅羽ビオトープ:平成14年~15年)

計画段階から「こまがわ市民会議」により市民参加で行われた。現在も市民・地元自治体・河川管理者による会議がおこなわれており、市民主導による維持管理が実施されている。

#### 2.3. 荒川太郎右衛門地区自然再生事業(太郎右衛門自然再生地:平成13年~令和4年)

旧流路を活かした3つの池を中心に、多様な生物の生息環境となるよう湿地再生を実施。学識者や環境団体、市民や自治体などによる協議会事務局として、モニタリング・維持管理活動を継続する。



▲太郎右衛門自然再生地

#### 2.4. 荒川中流部自然再生事業(大間地区湿地再生:令和元年~)

湿地環境の創出及び流入水路の落差解消による荒川と堤内の連続性確保を実施中。周辺農地とあわせ、さまざまな水辺生物がすみやすい環境を広く確保することで、コウノトリなどの大型鳥類のえさ場にもなることを目指す。



▲大間地区湿地再生

### 3. 環境学習・地域連携

#### 3.1. 多様な関係者との連携・協働(令和3年度実績※)

河川協力団体(環境関連):4団体

活動※する保育園・小・中学校:7校

活動する高校・専門学校・大学:5社

活動する企業:4社



▲企業や子供による自然を守る活動

自然を守る活動や環境学習を通して、地域の多様な関係者と一緒に多自然川づくりを実施中。

※太郎右衛門自然再生地・三ツ又沼ビオトープで確認している活動のみを集計。

### 4. コロジカル・ネットワーク(平成29年~)

#### 4.1. 荒川流域エコネット地域づくり推進協議会

平成29年に3市2町と共に協議会を発足。有識者や環境団体、地域の方々と共に、地域の

自然環境を豊かにし、さらに地域振興につながる取り組みを充実させることで、自然と治水が調和した魅力的な地域づくりの実現を目指す。

## 4.2. 荒川流域エコネット地域づくりアクションプラン

これまで環境保全や地域振興に向けた活動は継続しつつ、地域関係者が連携・協力することでさらなる効果が期待できることをまとめたアクションプランを令和2年に策定。地域の将来イメージを「荒川流域の空にコウノトリを羽ばたかせよう！」として関係者と共に活動中。

## 5. 治水と環境が調和した事業の実施

### 5.1. 荒川緑肥(平成9年～)

堤防除草で発生した草は通常焼却処分となるが、一部を堆肥化。平成9年に「荒川緑肥」として県に届け出。令和3年度も引き続き無料配布を実施している。

### 5.2. 越辺川ビオトープ(平成6年～12年 令和4年度以降一部再整備)

築堤土確保を目的とした河道掘削にあたり、整備後の状態がビオトープとなるよう、地元環境団体の声などを聞きながら実施。低水路をビオトープとして整備したのは全国初。令和元年度洪水の災害対策のため、一部改変を予定。堆積した土砂等を取り除き、環境再編を目指す。



▲越辺川ビオトープ

### 5.3. 釘無橋下流地区(令和2年度～)

令和元年度洪水を受けて行われている「入間川緊急治水対策プロジェクト」で実施中の河道掘削。支川合流や堰などの構造物の影響、土砂の再堆積防止などを考えながら、治水機能の向上と、多様な環境創出を目指す。



▲釘無下流地区掘削状況

### 5.4. 環境配慮情報の公表(令和3年～)

工事实施予定箇所の環境情報や配慮について HP で公表。地域の方に工事を知っていただくと同時に、環境情報を求める取り組みとして試行的に実施。



▲環境配慮情報の公表

## 6. まとめ

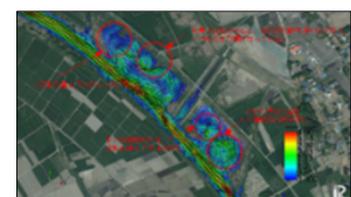
当事務所では昭和55年に文化庁から荒川第一調節池総合開発事業におけるサクラソウ自生地へ配慮を求められるなど、古くから「多自然川づくり」に取り組み、現在に至っている。

その間に得られた工事における環境配慮やその後の環境変化のモニタリング、河川をフィールドとした地域の方との連携などは、次の取り組みのための知見として活かしていくと同時に、継続的に取り組むことが重要と考える。

また、三次元データの活用や、SDGs等、技術や社会面での変化があるなか、設計検討のあり方や合意形成の方法の工夫、企業等との連携など多様な主体による保全活動など、新たな視点も多自然川づくりに取り入れながら業務を推進している。



▲三次元データを活用したCG



▲流速等を考慮した掘削形状検討